

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 12月 1日

【評価実施概要】

事業所番号	0170202618		
法人名	株式会社じょうてつケアサービス		
事業所名	グループホーム 菜の花しのろ館		
所在地	札幌市北区篠路3条8丁目9番6号 (電話) 011-771-1092		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成20年11月28日	評価確定日	平成21年2月6日

【情報提供票より】 (20年 11月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年 11月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 17人 非常勤 0人 常勤換算	15.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 16,000 円 暖房費(11～3月) 7,000円
敷金	有 (55,000 円) ・ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,250 円		

(4) 利用者の概要 (11月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性 7 名	女性 11 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名
要介護3	9 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84.7 歳	最低 59 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	しのろ駅前医院、宮の沢ファミリークリニック、マリパ歯科
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

複数の介護施設を運営する法人が開設した当ホームは、本社が確立した介護事業運営体制のもと、住環境を重視したユニバーサルデザインの建物と明るく親身で、ともに支え合う関係を大事にした職員のケアサービスによって、利用者は居心地良く、ゆったりと暮らしている。ホームは地域との連携にも努力し、運営推進会議の積極的開催や各種町内会行事への参加、多数の地域ボランティア受け入れ、周辺住民の避難訓練への協力など、地域との交流が進行している。また、ホームは家族との連携にも配慮し、写真付きの個人別お便りで利用者の日常生活を伝えるなど、家族にとっても安心のできるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価のお便りの内容は、個人別お便りを含めて利用者の生活状況なども重視している。ほかのグループホームとの交流は、地域行事へ近くのホームと共同参加やホーム同士の相互訪問を計画しており、課題改善に向けて取り組んでいる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員全員で作成に参加し、管理者は職員一人ひとりと話し合いながら完成させている。評価結果で明らかになった課題は、職員会議で検討しながら、ケアサービスに活かすよう改善に向けて取り組んでいる。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヵ月毎定期的に開催しており、ホーム運営状況報告のほか、参加者の意見や要望、ホームからの協力要請など意見交換が行なわれている。会議では地域との連携を重視し、ホームと町内会役員との緊急連絡網を作成し、避難訓練に周辺住民の方々が参加していただくなど、会議を通じて地域との交流が進んでいる。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族が来訪した際に、意見、要望などを「気づきノート」に記録や申し送りや伝え、職員会議で話し合いながら、改善に向けて取り組んでいる。改善した事項は、個人別お便りや家族来訪時に伝えて、家族にも安心していただけるよう努めている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内行事のフリーマーケットや児童会館のイベントなどに積極的に参加し、散歩中には、ゴミ袋を携帯して町内美化に協力し、地域から感謝されている。また、地域のボランティアを多数受け入れ、踊りやお化粧品講座を利用者は楽しんでおり、ホームの避難訓練には、住民の方々の協力をいただくなど、地域との連携は極めて良い状態にある。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム運営理念に地域との係わりを示す内容を追加し、各種行事への積極的参加など、ホームと地域との交流を深め、利用者へのサービスの向上に反映させている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ネームプレートの裏面に理念が記載しており、朝のミーティングでも復唱して、常に理念を意識しながら、利用者のケアサービスに努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会行事には積極的に参加し、利用者の散歩ではゴミ拾いも行なって地域から感謝されている。地域の子供たちとのふれ合いにも力を入れ、児童会館のイベントに参加して、小中学生との交流があるなど、地域との付き合いは十分に行なわれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者及び職員は評価の意義を理解し、全員が自己評価作成に参加している。職員が作成した評価を管理者が話し合いながらまとめている。評価結果の課題はミーティングで検討しながら、利用者へのケアサービスに反映させている。		

札幌市北区 グループホーム 菜の花しのろ館

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヵ月毎定期的に開催して、ホーム運営状況報告や参加者からの質問、要望など活発な意見交換が行なわれている。会議を通して町内会役員との緊急連絡網作成、避難訓練への協力など、会議結果が効果的に活かされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者会議で行政担当者との接触があるが、さらに、ホーム運営に関する相談や介護に関する情報収集など、区の担当者と連携し、ケアサービスに活かすよう取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への報告は、家族の来訪時やホーム便り、電話、ファックスで暮らしぶりを伝えている。また、担当職員が利用者一人ひとりの写真付き個人別便りを送付して、家族から喜ばれている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や要望などについて、ホームの苦情処理体制は整備しているが、家族来訪時に職員が聞き取り、朝のミーティングや職員会議で検討し、改善に取り組むように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動などは少ないが、引き継ぎの際に利用者に影響が無いよう慎重に対応している。新人職員の場合は、先輩職員が不安を与えないよう配慮しながら紹介し、馴染みの関係になるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質的レベルアップに運営法人が積極的に取り組んでおり、内部研修や外部研修に職員は順次参加している。研修内容や資料は復命書で報告し、会議などで発表して職員の共有となっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者連絡会議などを通じて、ほかのグループホームとの交流がある。周辺に位置するグループホームとも交流の必要性を話し合い、地域行事へ合同で参加予定など、ほかの業者との交流を進め、利用者のサービスに活かすよう努力している。	○	地域イベントへの協力など、ほかのホームとの交流を深める努力をしているが、さらに、職員がほかのホームへも訪れ、現場で利用者への対応方法などを学び、利用者のケアサービスに反映することを期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム入居の前に、利用者の生活シートなど、家族からの情報をいただきながら話し合い、ホーム見学や1日体験で食事やおやつをともにして、できるだけ利用者がホームに馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	菜園作業や裁縫など、利用者の知識を職員が学び、これらを一緒に行ないながら過ごしている。フリーマーケットなど、町内会行事にも一緒に参加して手伝うなど、お互いに支え合いながら日常を過ごしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや意向は、「気づきシート」に記録しながら、毎日の生活の中で把握するようにしている。把握が難しいときは職員が根気よく話しかけ、利用者本位のケアサービスを心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者2人程度を職員が担当しながら、家族からの情報を参考にして、アセスメントとモニタリングを行ない、カンファレンスで検討しながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態変化の有無に拘わらず、3ヵ月毎に定期見直しを実施している。利用者に身体上の変化が生じたときには、医療機関とも相談しながら随時見直し、家族に説明して了解をいただいている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの車両を利用して通院やお祭り、花見などの外出支援を行なっている。ホームには別に居室があり、家族との面談や宿泊への利用、ボランティア活動の場と多彩な支援が行なわれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関との連携を密接にしており、定期往診時に希望者は、その都度受診しているが、かかりつけ医の受診も自由で、家族や職員が送迎している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームは利用者の重度化や終末期における指針を作成して家族にも説明している。利用者の重度化が進行したときは、家族と医療機関に相談しながら、指針に基づく対応策を職員で共有している。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、日常生活において利用者の誇りやプライバシーを損なわないよう言葉かけに注意している。利用者の介護計画など各種記録も、職員以外は自由に閲覧できないよう適正に管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員はホームの規則や都合を優先するのではなく、利用者の意思やペースを尊重して支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は食事準備や後片付けを職員と一緒にしない、食事時は嚥下体操のあと、同じ食卓で食事を和やかな雰囲気の中で摂っている。また、1ヵ月毎に実施している外食では、利用者と職員が楽しい時を過ごしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週に2回を原則として、午後の時間帯に毎回入浴順番を交代しながら実施している。利用者が衣服を汚した時などは、時間外でもシャワーで対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者はホームでの菜園作業や食事準備など役割を持ち、手芸、読書、カルタ遊びなどを楽しんでいる。また、ボランティアの受け入れも盛んで、踊りやお化粧講座など、利用者は喜んで参加している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者はホーム周辺や公園の散歩、近くのスーパーでの買物をしている。フリーマーケットなど、町内会行事にも職員と一緒に協力し、車両による花見や食事会も月1回以上実施するなど、多種多様な外出支援を実施している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	正面玄関は夜間帯のみ施錠をしているが、ユニット入口は昼夜とも施錠はしない。玄関にはチャイムがあるため、利用者の外出気配はすぐ分かるようになっている。		

札幌市北区 グループホーム 菜の花しのろ館

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は消防署の指導を受け、周辺住民の方々の協力をいただきながら実施している。さらに、運営推進会議で町内会役員にも協力を要請して、緊急連絡網を作成しており、災害対策に積極的に取り組んでいる。	○	ホームの災害対策は地域の方々の協力をいただきながら、避難訓練など十分に実施しているが、今後は、夜間想定訓練も取り入れることで、より充実した防災体制になることを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取や水分確保などは、利用者一人ひとりのチェック表によって確認している。食事メニューは、運営法人の栄養士によるメニューで栄養バランスも考慮されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは、利用者が快適に暮らせるようユニバーサルデザインで設計され、共用空間も明るくゆったりとした構造である。居間には季節の飾り、植物、利用者の手づくり作品などが飾られ、利用者がゆったりと過ごせる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全ての居室は広さに余裕があり、スペースも十分なクローゼットが備え付けてあるため、室内の整理が容易となっている。利用者は、それぞれ使い慣れた調度品などを自由に持ち込み、居心地良く暮らしている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。